



## News 白神山地 21世紀の幕開け News

昨年秋はブナの実が大豊作だったため、この春はいたるところでブナの新しい生命が芽生えました。地面からわき出るようにして並んだ実生（みしょう）が登山道をおおって道がわからなくなるようなところもありました。この小さなブナたちは、動物や昆虫に食べられるという最初の試練をのりこえて誕生した面々です。でも、光などの条件によってみんなが大きくなれるわけではありません。新世紀生まれのブナたちが、試練を乗り越えて未来の白神山地のために育っていく様子を見守りたいものです。



いっせいに芽を出したブナの兄弟たち  
(撮影 高橋仁志・弘前市)



アカネズミは木の実を埋めて森を作るはたらきもしています (撮影 江川正幸・青森市)

もう一つ話題になったのは、アカネズミの大発生でした。白神ラインを走る車の前にも、山歩きをする目の前にもアカネズミが飛び出してきました。ネズミが増えたことで、今度はどんな変化が起きるのか白神山地を見守っていきましょう。

## ！ マナーを守って入山しよう ！

夏から秋の紅葉まで白神山地はたくさんの人を迎えます。マナーを守り、お互いに気持ちのよい、自然を傷つけない入山を心がけましょう。

- ・山に行くときは行動計画をきちんと立て、家族に知らせて行きましょう。
- ・細い道まで車やバイクで入らず、駐車も決められたところにしましょう。
- ・ゴミになるものは持ち込まず、ゴミは必ず持ち帰りましょう。
- ・動植物に近づきすぎたり、傷つけたりしないようにしましょう。

野生の動物に出会うと思わず餌をあげたり、近づいて写真を撮ったりしたくなるでしょう。しかし、それはお互いにとっての不幸と自然を破壊する結果を生みます。人の餌に慣れた動物は人に接近するようになり、交通事故が起きたり、サルの場合には人家周辺において害をもたらしたりします。野生の動物には絶対に餌を与えず、安全のためにも距離を保って観察しましょう。

白神山地最大級といわれるマザーツリー。白神山地のブナの代表格になったこの木を訪れて感動を受けていく人は多いのですが、その周囲の土が踏み固められてきています。木の健康を考え、根元を踏んだりしないように優しさをもって接しましょう。

白神山地には技術と体力を必要とする困難な場所があります。事前によく調べたり、ガイドを頼んだりして、自分の力量にあった登山をしてください。世界遺産地域の核心部への入山には申請が必要です。事前の手続きを済ませてから入山してください。



マザーツリーが長生きするために根元を踏みつけないように気をつけましょう

## 発刊にあたって

白神山地ビジターセンターは、白神山地が平成5年に鹿児島県の屋久島と共に日本で最初の～世界自然遺産～に登録されたことを契機として、原生的なブナ林が広範囲で、かつまとまって残されている白神山地の大切さや、広く自然保護思想を普及し啓発するための施設として、平成10年10月にオープンした県の施設です。

開館して3年になろうとしています。当センターの目玉でございます超大型映像や展示ホールなどの各施設も好評を得ておりますことは、県民の方をはじめとより県外の皆様のご支援の賜ものと感謝を申し上げる次第です。

こうした中で、白神山地の自然に関することやセンターの動きなどの情報を提供するため、本年度から「白神山地ビジターセンターだより」を刊行致します。充実した内容にしたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

なお、執筆をお願いいたしました各先生には、ご多忙のところ快諾を賜り心から御礼申し上げます。

平成13年8月1日  
白神山地ビジターセンター館長 富岡 司



活彩あおもり  
一輝くあおもり新時代



ナチュラリスト  
からの手紙

## 白神山地とイヌワシ

青森イヌワシ調査会 飛鳥和弘

イヌワシは現在日本全国で400～500羽しか生息しておらず、絶滅が心配されています。

青森県では4年前から保護方策のための調査を行っており、つがいで確認されたのは岩木山（餌を捕る狩場）と白神山地の2ヶ所でした。巣があると思われる白神山地には4～5つがいが生息していることがわかり、昨年に続き今年6月、弘前のアマチュアカメラマンによって2つめの巣が確認されました。白神山地はイヌワシにとってかけがえのない場所なのです。

イヌワシの繁殖は11月に巣付近での雌雄のなわばり宣言飛行で始まります。2月上旬に谷の絶壁の岩棚の巣に産卵し、3月下旬にヒナが誕生、ウサギやヘビなどの餌が運ばれ、6月上旬に巣立ちします。しかし、白神山地は調査に重要な繁殖期に気象や行程上の悪条件が重なるため、思うように調査できません。

イヌワシの生活で最も大切なのは巣と狩場です。巣及びその周辺が安全に保たれ安心し



白神山地上空を飛ぶイヌワシ（成鳥）

て子育てができる環境と、餌動物が豊富で安定してとれる狩場を確保し続けられるよう保護管理しなければなりません。

食物連鎖の頂点にいるイヌワシが生息していることは、そこが健全で豊かな森である証なのです。このようなことわざがあります。

Today's birds, tommorow's men.

今、鳥たちが住めない環境にあるならば、近い将来人間も住めなくなるでしょう。

## イベント報告

### 6月3日 第1回自然観察会 「新緑のブナ林ウオーク」

朝から小雨がぱらついていましたが、ブナ林散策道を約2時間ゆっくり歩いて植物を観察できました。森の様子は、春植物が姿を消して夏に向かって模様替えをしているといったところ。コンロンソウ、ウワミズザクラ、ツクバネソウ、チゴユリ、ユキザサ、ホウチャクソウ、マムシグサなどの花や、オオルリ、キビタキのさえずりを味わうことができました。昼食のころから雨が強くなりましたが、津軽峠ではマザーツリーとの感動の対面。ササの花の珍しさに心動かした人も多かったようです。案内役は自然ふれあいガイド会の小林英治さん、前田鏡治さん、奥崎正基さん。遠くは千葉から、合計32名の参加でした。

### 6月24日 第1回白神山地トレッキング

津軽峠から高倉森をぬけ、アクアグリーンビレッジANMONまで下る自然観察歩道5.6キロのコース。前半はアップダウンを繰り返す原生的なブナ林の風景。幹にからみつくコケ、クマの爪あと、ギンリョウソウの不思議な姿に立ち止まったり、コルリのさえずりを近くで聞いたりしました。展望台で昼食をすませるといよいよ長い下り。ロープにつかまって下りる場所もありました。足が疲れた頃にミズナラの巨木が登場。幹周りは5.5メートル。神が宿ると言われる木と出会った感動を胸に下山。案内役は自然ふれあいガイド会の小林英治さんと渋谷信一さん。参加は30名でした。



マムシグサを見ながら名前の由来を考える



写真1 ブナの実



散らばっている茶色い3角形のものが実です。右上と中央にある丸いとげの生えたものは、実が入っていた「イガ」です。

白神山地はなんといってもブナ林で有名です。ビジターセンターの前の木立にもブナの木がたくさん植えられています。

ブナは花の咲く植物だから種でふえます（写真1）。ブナの木は、いつもはあまり実をつけず、だいたい5～7年に一度めぐってくる豊作の年に実をたくさんつけるといわれます。昨年、白神山地のブナは大豊作でたくさん実がなり、今年はブナの実生（みしょう）—赤ちゃんがそろって出てきました（写真2）。いま、林道や山道のふちなどの日当たりのよいところに行くともみられます。ブナも最初は朝顔や大豆のようなふた葉が出てきますが、写真に写っているのはそのあとに出てくる葉（本葉：ほんよう）です。

これらのブナの赤ちゃんは、これからどうなるでしょう？ほとんど全部枯れてしまうのです。林道のふちなどで、日当たりがとてもよいところでは生き残るものもかなりありますが、林の中ではほとんど生き残れません。来年には大部分がなくなってしまいます。

せっかく芽を出しても、ほとんど全部枯れてしまうのは、なんかだかかわいそうに思えるかもしれません。でもこれは仕方のないことです。芽を出したブナが全部育ったらどうなるでしょう。たとえば、写真2はだいたい横50cm、たて30cmぐらいの面積ですが、ここに約20本の実生が写っています。でっかい大人のブナが20本もこの狭い面積に生えることは絶対にできません。

大きなブナは横に枝を張り出しますから、大人のブナは10m四方にせいぜい2～3本ぐらいしか生えることができません。あとから芽を出したブナは、割り込むことができずに枯れていきます。

ブナの木は寿命はだいたい200～300年ぐらい、40～50才ぐらいから実をつけ出し、豊作年には、1本で5～20万個ぐらいの実をつけるといわれています。いま仮に50才から実をつけ、寿命250年、5年に1回ある豊作年には10万個の実をつけ、その他の年は実をつけないとして計算すると、実をつける期間は、 $250 - 50 = 200$ （年）。豊作年の回数は、 $200 \div 5 = 40$ （回）。一本のブナが一生につける実の数は、 $40 \times 10万 = 400万$ （個）ということになります。ブナ林がつづいていくには、この400万個のうち1本だけ生き残ればいいのです。2本生きのびたらこみすぎで、1本が生活する面積も、受ける日の光も、吸い上げる栄養も半分に減ってしまいます。これはまずい。

400万個の実の中には、クマやサルやネズミ、あるいは昆虫などに食べられて発芽できないものもたくさんあります。それらの実は、動物たちの栄養になり、動物たちの子孫を育てます。

生き残れるのは、動物に食べられず、何かの原因で運よく大きな木が枯れたり倒れたりしたあとの日当たりのよい地面に芽を出し、いっしょに芽を出したほかの実生より早く育つことのできたものだけです。

ブナに限らず、生物は一生にたくさんの子孫を生み出しますが、ほかの兄弟より優れた性質をもち、しかも運のいいものが親の数だけ生き残り、残りは自然全体がうまくやってくためにほかの生物の栄養になります。これが自然の仕組みなのです。きびしい話ですね。

写真2 ブナの実生



わりと明るい林内です。まだこんなにたくさんの実生が残っていますが、来年まで生き残るのはほんのわずかしかなりません。



# ビジターセンター情報掲示板

## センターにはみなさんの声が生きています

センターでは提出されたアンケート結果を検討し、来館した方から寄せられた要望を出来るだけ実現していきたいと考えています。今までアンケートで寄せられた内容では、車椅子が足りない、時計が見にくいというようなことがあり、さっそく車椅子を補充、時計も見やすい位置に新たに付けました。禁煙にすべきではないかという声にも応えて全館禁煙とし、気持ちよく見学できるようにしました。より快適で楽しい時間を過ごせるセンター作りを目指しておりますので、今後も感想やアイデアをお寄せ下さい。

## 展示林もおもしろいぞ！

センター前にある展示林やせせらぎをじっくり見たことがありますか。これは白神山地の森を再現し、山に行けない人でも森を体験できるように作られたものです。そこに今ブナやミズナラ、カエデの種子が芽を出し、センター生まれの世代として成長しています。さらに、植えていなかったはずの植物も出現しています。5月に見学に来た黒石市立大川原小学校のみなさんはワサビが生えているのを発見。そのほかにもカタクリ、ホウチャクソウ、ネジバナ、ハマナス、クルマユリ、カラスザンショウなど思いがけない植物が見つかっています。

## 忘れ物にご注意！

ハンカチ、帽子から傘、財布までセンターには様々な忘れ物があります。気がついて取りにくる方や宅配で送ってくれるように連絡を下さる方も時々いますが、ほとんどは忘れっぱなしです。忘れ物に気づいたら早めの連絡をお願いします。

## これからのイベント案内……………実施はすべて日曜日です。

- 8月26日 トレッキング ……なべくら森のカツラの巨木を訪ねます。
- 9月23日 トレッキング ……秋の天狗岳を訪ねます。体力のいる健脚向けコース。
- 10月7日 自然観察会 ……暗門周辺の秋のブナ林を味わいます。
- 10月21日 トレッキング ……紅葉の高倉森を散策します。長い下りがあります。
- 11月4日 自然クラフト教室 ……バードカービングを通して野鳥の世界に親しみます。
- 11月25日 ネイチャースクール ……弘前大学の大高先生による「十二湖の科学」のお話。(午前)
- 12月23日 自然クラフト教室 ……クリスマスリース作りを楽しみます。(午前)
- 1月27日 ネイチャースクール ……動物写真家江川正幸さんの「世界のブナ林」のお話。(午前)
- 2月17日 自然クラフト教室 ……カンジキ・コナギ作りでマタギ文化にふれます。
- 3月17日 トレッキング ……雪の八方ヶ岳をめざします。雪山を歩く装備が必要です。

※天候、その他の自然状況の変化や事情により、行事や場所等を変更することがあります。  
※主催行事への申し込み受付は3週間前から開始します。詳細はセンターにお問い合わせ下さい。

## 臨時開館日

平成13年8月6日、平成14年2月11日、2月18日、2月25日

## 白神山地ビジターセンター

—入館無料—

【開館時間】9:00～16:30 (大型映像10:00 11:20 13:00 14:10 15:20上映時間30分)  
【休館日】毎週月曜日(ただし、月曜日が祝日の場合は翌日)、年末年始(12月29日～1月3日)

〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1

Tel: 0172-85-2810 Fax: 0172-85-2833

ホームページ <http://www.pref.aomori.jp/sirakami/visitor/visitor.htm>

※30名まで収容できる会議室、工作室があります。ご利用下さい。(要申込み)  
※学校の見学や体験学習については相談をうけています。ご連絡下さい。

